

## 経営的視点で有機農業を展開

有限会社 山口農園 (奈良県宇陀市)

食の安全・安心に対する消費者の意識が高まる中、禁止された農薬や化学肥料を使わない有機農業で安全でおいしい農産物を消費者に提供しているのが、宇陀市の有限会社山口農園である。ハウレン草や小松菜などの軟弱野菜とクールミントやローズマリーなどのハーブ類など30種類以上の作物を77棟のハウス(32,000㎡)と露地(3,500㎡)で生産している。



宇陀の山あいのきれいな水と空気で育てられる有機野菜

社長の山口武さん(56)は、県土木技師、建設会社営業マンを経て約10年前に実家の農業を継承。農業経営者としては異色の経歴の持ち主である。

引き継いだ当時は家族3人の小規模農家。作物の販路は固定化されており、早朝から深夜までの長時間労働で作った作物も出し値は言われるがまま。とても採算に乗るものではなく、山口さんにはビジネスとは縁遠いものと映った。

ある日、近所のスーパーへ自家の作物を置いてもらうように持ちかけたところ、先方から要求されたのは有機農産物だった。これが有機農業へ舵を切るきっかけとなった。

有機農産物を「有機」と表示して販売するには有機JASの認証が必要である。JAS規格に適合した生産が行われていることを登録認定機関が検査し、認定された事業者のみが有機JASマークを貼ることができる。山口農園は平成12年に



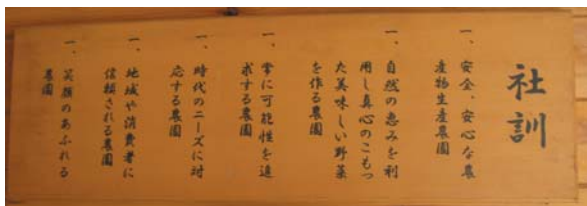
### ■有機農産物の栽培基準

- ・種まき又は植え付け前2年以上、禁止された農薬や化学肥料を使用していない田畑で栽培する。
- ・栽培期間中も禁止された農薬、化学肥料は使用しない。
- ・遺伝子組換え技術を使用しない。

「有機JAS」の認証取得に成功した。

認定に伴い、作物に会社名の入ったラッピングを施し、安全・安心のブランドを強調。販路も従来の市場からスーパーや百貨店に転換した。これにより、一般農作物の店頭価格を上回る価格で出荷できるようになった。

山口さんがめざすのは、「経営農業」。出荷のための袋詰めなどを行う作業場の入り口には農場には珍しい「社訓」が掲げられている。「常に可能性を追求する農園」「地域や消費者に信頼される農園」など山口農園の経営の支柱となるキーワードが並ぶ。これを毎朝8時から始まる朝礼で全員唱和する。



作業場入り口にある「社訓」(上)とタイムカード(左下)。右下は作業場の袋詰め風景。

4年前に法人格を取得し、今では社員とパートタイマーを合わせて29人を雇用する。勤務時間(8:00~17:00)、休日(隔週2日制)など一般の事業所とほとんど変わらない勤務条件で社員を遇する。

農業経営の傍ら、有機農法普及のため、若い研修生の受け入れにも取り組んでいる。研修では生産から流通まで山口さんが農業経営のノウハウを1年間で伝授する。次代の地域農業の担い手を育て、「日本の農業の活性化を図る」という壮大なチャレンジが宇陀の農村で進行している。

(井阪 英夫)

### 有限会社山口農園

〒635-0015 奈良県宇陀市榛原区大貝332  
TEL: 0745-82-2589 FAX: 0745-82-2669  
URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~jy001027/>